

宇治市教育委員会定例会会議録

日 時 令和7年12月19日(金) 午後6時00分 開議

場 所 宇治市役所602会議室

会 議 日 程

日程第1 会議録署名委員の指名について

日程第2 報告

会議に付した事項 会議日程に同じ

出席者

教 育 長 木 上 晴 之
(教育委員)

教育長職務代理者 加賀爪 毅
委 員 中 筋 斉 子
委 員 小 山 栄 子
委 員 左 聡 一 郎

(出席職員職氏名)

教 育 部 長	福 井 康 晴	教 育 部 副 部 長	川 崎 吉 隆
教育総合推進センター長	武 田 義 博	教 育 総 務 課 長	柯 慈 樹
学 校 管 理 課 長	吉 田 健 一 郎	学 校 教 育 課 長	安 留 岳 宣
学校改革推進課長	吉 川 貴 之	学校教育課副課長	葛 山 雅
学校改革推進課副課長	平 山 幸 司	学校教育課総括指導主事	一 井 洋 史

(書記職員職氏名)

教育総務課副課長	亀 井 明 美	教育総務課主事	西 村 結 衣
----------	---------	---------	---------

開 会 (午後6時00分)

○**開会宣言** 教育長が12月教育委員会定例会議の開会を宣言する。

○**日程第1** 会議録署名委員の指名について

教育長から宇治市教育委員会会議規則第13条第3項の規定により、加賀爪委員を指名する。

○**日程第2** 報告

- (1) 令和7年12月市議会定例会について
- (2) 文教・福祉常任委員会（令和7年12月16日）について
- (3) 令和8年度宇治市立笠取小学校特認入学募集結果について
- (4) 小中一貫教育推進協議会について
- (5) 宇治西小倉学園の第3回学校説明会について
- (6) 宇治市の児童・生徒数推計について
- (7) 宇治市教育委員会後援事業について

以上7件を報告する。

(1) 令和7年12月市議会定例会について

[一般質問] 12月9日・10日・11日

質問議員・・・ 15名 (うち教育委員会関係 9名)

[説明]

① 西川 友康 議員

○中学校給食の進捗状況について

- ・学校の状況について
- ・保護者への対応について

② 西川 美代子 議員

○困難を抱える方の支援について

- ・発達障がい支援について

○文化、芸術振興について

- ・文化、芸術教育について

③ 山崎 匡 議員

○教育費の負担軽減について

- ・就学援助について
- ・通学支援について
- ・教材費について

④ 坂本 優子 議員

○公民館について

- ・社会教育主事の配置について
- ・日曜日の開設について
- ・公民館の予算について

⑤ 藤田 智晴 議員

○教育について

- ・小中一貫校の魅力向上について
- ・時代に即した教育について
- ・人口減少と学校配置について
- ・いじめ対策について

⑥ 渡辺 浩司 議員

○こどもまんなか

- ・小学校と育成学級の連携
- ・部活動の地域移行

⑦ 佐々木 真由美 議員

○子どもたちの読書活動の推進について

- ・アンケート調査の結果について
- ・読書習慣を身につけるための取組みについて
- ・デジタル教育の検証について

⑧ 大河 直幸 議員

○学校給食について

- ・給食費無償化と保護者負担の軽減について
- ・中学校給食について

○子どもの発達について

- ・発達障がいの対応について
- ・不登校の対応について

⑨ 西川 康史 議員

○部活動の地域展開について

(2) 文教・福祉常任委員会（令和7年12月16日）について

① 宇治市の学校給食無償化と豊かな給食を求める請願

○真田 敦史 委員

- ・国の学校給食無償化の検討状況は市に正式に伝えられているのか。
- ・完全無償化したときの小学校、中学校でどのくらいの経費が必要になるのか。
- ・来年4月から開始する中学校給食の準備状況はどうか。
- ・国の無償化の方針が確定しない中で、市は無償化について何かできるのか。

○谷上 晴彦 委員

- ・国ではなく、宇治市独自で無償化をするべきではないか。

- ・中学校給食の場合、試算では月 7,000 円ぐらいの負担になるのではないか。
- ・中学校給食は無償化に取り組まないのか。
- ・給食調理の自校方式の見解は。

○宮本 繁夫 委員

- ・無償化にかかる小学校 4 億円、中学校 3 億円の具体的な計算について。
- ・中学校の給食食数は 1 8 4 食で小学校と同じなのか。
- ・中学校が 1 か月 7,000 円程度となる計算について。
- ・物価高騰対策として支出する小学校給食費の補助は、中学校でも同じく実施するのか。

[討 論] 真田委員から請願に反対の討論、谷上委員から請願に賛成の討論がある。

[採 決] 採決の結果、反対多数、賛成少数により、請願は不採択となる。

② 仮称) 西小倉地域小中一貫校整備事業に伴う建築工事の請負契約の一部を変更する契約を締結するについて

物価高騰のインフレスライドや工事の追加等に伴う変更契約の議案である。

○加勢 京子 委員

- ・インフレスライドの単価の考え方について。
- ・変更契約の金額はコスト抑制のために努力したのか。

○宮本 繁夫 委員

- ・予算決定から発注契約の流れについて。
- ・契約事項にないものを工事の途中で変更するには、議会に報告してから進めるべきであり、事後報告はありえない。

○真田 敦史 委員

- ・グラウンド整備工事関連の変更理由について。
- ・宇治西小倉学園開校への教育長の想いについて。

○宮本 繁夫 委員

- ・新校舎とグラウンドの段差はどのくらいあるのか。

[採 決] 採決の結果、全会一致で採択される。

③ 西小倉中学校校舎ほか解体工事の請負契約を締結するについて

○加勢 京子 委員

- ・アスベストの撤去費用について。
- ・解体工事期間中の苦情及びその対応について。
- ・学校への配慮から夏休みに集中して行うなどの計画をしているのか。

○宮本 繁夫 委員

- ・想定しているアスベストの含有量について。

- ・解体は新校舎との距離が近い為、安全管理・騒音対策をしっかりとってもらいたい。
- ・説明会が2月というのは遅いのではないか。
- ・京都府による井川の河川改修工事の影響で、宇治西小倉学園のグラウンド整備の進行に影響は出ないのか。
- ・グラウンドの雨水貯留については問題ないのか。

[採 決] 採決の結果、全会一致で採択される。

④ 宇治市教育委員会の所管する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の報告について

○谷上 晴彦 委員

- ・給食センターの工事について補正予算が上がっているが、昨年度の設計時に対応できなかったのか。なぜ事前に分からなかったのか。

○真田 敦史 委員

- ・放課後の子供たちの居場所についての総合教育会議でどういった議論があったのか。
- ・読書や学習面が弱いことが分かっている中での読書習慣について。

○宮本 繁夫 委員

- ・就学援助についてどのように周知しているのか。
- ・ホームページの就学援助に関する内容について、少し誤解を招く内容となっているのではないか。
- ・周知・広報の仕方について見直してもらいたい。

⑤ 第2次宇治市教育振興基本計画の第1回中間見直しについて

○真田 敦史 委員

- ・今回の見直しで変更した指標の、変更理由や思いについて。
- ・外部有識者から乳幼児教育・保育との連携について指摘を受けた中で、指標が1つだけでいいのか。
- ・子どもの読書や学力について。

○加勢 京子 委員

- ・運動に関して、体力も全国平均より低いので、体力も大事ではないか。

○谷上 晴彦 委員

- ・不登校について。

○木本 裕章 委員

- ・学力の国指標としてIRTスコアに変えることで、何か具体的に変わったことがあるのか。

○宮本 繁夫 委員

- ・インクルーシブ教育に関する専門性の高い人材育成の重要性について。

[質 疑] なし

(3) 令和8年度宇治市立笠取小学校特認入学募集結果について

[説 明]

募集期間は、令和7年10月16日（木）から令和7年11月21日（金）までで、募集の初日である10月16日に授業参観、学校見学、学校説明会を実施した。学校説明会の参加者は2名、校長面接を受けた者は1名、最終応募者、いわゆる入学希望者は1名であった。今回4名の募集に対して1名の応募となったため、1名の入学予定者を決定した。この結果、令和8年度の笠取小学校の在校生は、新1年生は特任1名となり、学校全体では、地元1名、特認15名の総数16名となる見込みである。

[質 疑]

[委 員] 生徒の男女比はどうなっているか。

[事務局] 現在は、男子児童10名、女子児童9名であり、新年度は、男子児童8名、女子児童8名となる予定である。

(4) 小中一貫教育推進協議会について

[説 明]

会議当日は、昨年度作成した12年間の宇治市小中一貫教育の検証を踏まえ、前回示した「今後の展望 基本方針」を元に、2回のプロジェクト会議を実施し、「学力向上」「生徒指導」「学校・家庭・地域の連携」の3つの視点で意見を頂戴した。そのプロジェクト会議でいただいた意見をもとに、それら3つの視点で、事務局でまとめたものに、更に「今後の展望」につながる意見を頂戴した。

いただいた意見としては、「学力向上」の面では、「現在の学習指導要領に示す学力観を元に、授業改善をしていくことは教員の永遠のテーマである」、「点数だけではない、学力の「向上」は、どこに向かっていくかを小中で方向性を揃えていくべきではないか」といった意見、また、「ラーニングコーディネーターの育成や学力に専念できる環境づくりが必要である」などの意見を頂戴した。

「生徒指導」の面では、「児童生徒の実態把握だけでなく、個々の児童生徒の情報をしっかりと共有して引き継ぎ、その情報をもとに、一人ひとりの子どもたちを支援していくことが大切である」、「ヤングケアラーや貧困、発達課題等の困難を抱える児童生徒に対する声かけ等の接し方を盛り込むべきではないか」といった意見を頂戴した。

「家庭・学校・地域連携」では、「ゆるやかにつながる関係を大切にして、役割や負担を考慮し、気軽に参加できる取組が良い」、「ホームページでの発信では受け身になるので、新たな方法での情報発信が必要ではないか」といった意見を頂戴した。「家庭・学校・地域連携」の項目にも、保幼小連携の視点も入れてほしい」という要望もあった。

今後、2月に第3回の推進協議会を開催し、これまで議論いただいた意見をもとに、「宇治市小中一貫教育12年間の検証を踏まえた宇治市の小中一貫教育 今後の展望(案)」を作成する予定である。

[質 疑] なし

(5) 宇治西小倉学園の第3回学校説明会について

[説 明]

6月19日、9月18日に続き、第3回目となる説明会を11月28日(金)に西小倉中学校体育館で実施した。

今回は約100名の保護者の皆様に参加いただいた。事前に案内しているとおり、説明会后に、保護者の皆様に対しその説明内容等をホームページへ説明動画等も含めて掲載する予定としている。

資料は、4月に開校する宇治西小倉学園について、子どもたちや保護者の皆様がとまどうことなく4月を迎えられるように、知っておいていただきたいことや準備していただくことなどを学校でまとめた冊子である。

3ページから6ページには、宇治西小倉学園の教育目標や目指す教育内容などを記載している。

11ページ・12ページには、現時点の日課表の予定を掲載している。異学年の交流や児童生徒会活動が設定しやすいように、休み時間や掃除の時間については出来る限り、小中学校であわせている。

16ページから18ページには、制服や体操服類、安全帽のことなどを記載している。宇治西小倉学園では、買替時期にあわせて小学生時から中学校用の体育館シューズを使用できるように設定している。登下校時には、帽子を着用することとして、令和8年度の新1年生は黄色の安全帽を着用することとした。

24ページから26ページには給食について、29ページには、開校式・始業式・入学式の予定について、33ページ・34ページには、特に新小学校1年生が準備することなどを記載している。

説明後の質疑では、「給食のエプロンについて、紙のエプロン・使い捨てにすることはないか」「給食のエプロンについて、新7年生からは割烹着ではなく、普通のエプロンを使用するのか」「体育大会を5月に予定されているが、何曜日に行くか」「帽子を買い替える時はどうすればよいか」「給食のアレルギー対応について教えてほしい」などの意見や質問があった。

今後は、令和8年1月23日(金)に、西小倉小学校で3小学校合同の新小学校1年生対象の説明会・体験入学実施を予定している。

[質 疑]

[委 員] 19ページの安全帽について、1年生は黄色い安全帽を着用するとあるが、

2年生以上については、安全帽以外の帽子でもよいので何らかの帽子をかぶるという意味でよいか。

[事務局] お見込のとおり。翌年度以降も新1年生には安全帽を案内し、全員が安全帽等をかぶることを想定している。

[委員] 野球帽や毛糸の帽子など種類は問わないが、帽子は必ず守りましょうということか。

[事務局] 登下校の際の熱中症等を鑑みて、帽子をかぶることを推奨する。

[委員] 2年生・3年生と成長するにつれて、帽子着用を嫌がる子が増えてくる為、どこまで徹底できるかは難しいと思うが、安全面を考慮してのことであれば徹底していけばよい。例えば校外学習等では様々な帽子をかぶる学年があることになるが、校外学習の時は黄色の安全帽とする対応はしないのか。

[事務局] 協議の中で、そういった場合は例えば赤白帽などの帽子がよいのかなという話もあったが、登下校に関しては、赤白帽でなければならないとかではなく、「かぶる」ことを推奨することとした。

[委員] 通学においては集団登校であるが、開校前に実際にそこを歩いてみたりシミュレーションをするのか。

[事務局] 日程は未定だが、小学校で通学のシミュレーションをする予定。11月頃に、北小倉小学校においては、北小倉小を出発点として、西小倉小・南小倉小・西小倉中を全児童が、縦割り班をつくって歩く取組をした。児童が地域を知って歩くような取組は、学校と協力してやりたいと考えている。

[委員] 20ページのメディアセンターについて、2階が小学生用図書、4階が中学生用図書とあるが、読書に親しむというのが本市の課題である中で、小学校の高学年になると中学生向けの本も読みたい児童もいると思うが、これは厳密に区分けされるわけではなく、柔軟に行っていくのか。

[事務局] 例えば中学生用図書についても、小学生が借りることができない、見ることもできないということではないが、中学生向けの本を4階に集めているので、運用の中で中学生用図書の利用もできるように整理している。

[委員] 司書の配置は予定しているか。

[事務局] 学校司書については、現在中学校ブロックごとでの配置としている。配置時間や、拠点校・巡回校をどうするかはこれから決定していく。

(6) 宇治市の児童・生徒数推計について

[説明]

本推計は、令和7年5月1日時点の児童生徒数及び0歳から5歳の乳幼児の人口を基にして、現在の0歳児が小学校1年生になる令和13年度までの児童生徒数を推計したものである。教室数は、5月1日時点の数を用いている。

1ページの小学校児童数推計表(総括)は、令和13年度までの学校別の学級数と児童生徒数を記載している。左側から、学校名、令和7年5月1日現在の数値、令和8年

から令和13年までの推計値となっている。令和7年5月1日現在の列に「実C」、「C」、「児童数」と並んでいるうち、真ん中の「C」は、前ページの目次の四角の中「推計方法について」の「4. 35人学級について」に記載のとおり、法令に基づき段階的に35人学級を編制した時の理論値である。それに対して「実C」の欄は、今年度の実際の学級数を掲載している。なお、特別支援学級については、学級数、児童生徒数ともに各校の下段に括弧書きで掲載しており、その数は全体の内数となっている。また、この特別支援学級の児童生徒数は、小学校では今年度の数値をそのまま推移させ、中学校では小学校の在籍人数を反映させている。2ページの「中学校生徒数推計表（総括）」も、小学校と同じ構成になっている。

3ページ以降の各学校の学年別の推計表では、5人以内の人数変動で学級数が増減する学年欄に白丸と黒丸を記している。白丸は5人以内の児童生徒数減で学級数が減少すること、黒丸は5人以内の児童生徒数増で学級数が増加することを表している。

令和13年までの推計で増加傾向を示している学校は、小学校では神明小と木幡小で、それぞれ増加している要因は大規模マンション開発等の影響によるものである。中学校では西小倉中と西宇治中が令和10年や11年に増加するもののその後減少傾向である。西小倉中は宇治西小倉学園の開校に伴う北小倉小学校区の中学校区変更の影響で増加している。

全体的には、今後も児童生徒数の減少の傾向が続くものと考えている。

[質 疑]

[委 員] 大規模開発の予定や見込みがある場所はあるか。

[事務局] 現在把握しているものは無い。

(7) 宇治市教育委員会後援事業について

一般社団法人京都府サッカー協会が、12月25～27日に山城総合運動公園 他にて開催する、「第44回京都招待中学サッカー大会」のほか6件、計7件の事業について後援を承認した。

[質 疑] なし

○**閉会宣言** 教育長が12月教育委員会定例会の閉会を宣言する。

閉 会 (午後6時35分)